

第11回NPO/GCM交流フォーラム

在宅医療現場における ICTの活用事例

特定非営利活動法人 全国在宅医療推進協会
事務局長 田中 正彦

令和6年4月27日

在宅医療現場の動き

1. 新型コロナ禍を経験、一般社会と同様に、それまで
当たり前の発想・行動を大きく見直す契機となった
(訪問体制の見直し、人材の確保、非集合化促進etc.)
2. 基幹病院の受診制限による患者動態の変化
確実に在宅医療対象患者は増えている
3. 自治体と医療機関との関係が緊密化
在宅医療普及体制が完備 (〇〇センター等)

ICT 現状の確認

厚生労働省資料「在宅医療介護連携を進めるための情報共有とICT活用」（平成24年研究報告）

在宅医療介護連携ICTシステム 機能一覧

項	機能名称	概要
1	ホームページ	医療・介護資源の公開
2	メーリングリスト	教育などイベントのお知らせ
3	電子掲示板	患者のケア情報を情報共有
4	電子温度板・生活記録	患者の日々のバイタル変化を把握 ADL（日常活動動作）を評価、適切なケアにつなげる
5	電子スケジュール帳	空き時間をリアルタイムに共有
6	患者紹介・逆紹介システム	診療情報提供書や返書を管理
7	教育・研修システム	医療手技、看護・介護技術の向上を目指す 教材や医療機器マニュアルを電子的に共有

8	センサ見守り 緊急通報システム	街のナースコール
9	遠隔医療システム テレビ電話	遠隔地の患者、専門医などをリアルタイムでつなぐ
10	遠隔モニタリングシステム	重症心身障がい児（者）の在宅医療を支える
11	テレ・カンファレンスシステム	専門医とかかりつけ医、多職種をつなぐ
12	地域医療連携システム	基幹病院の診療情報を参照
13	電子地域連携パス	がん・糖尿病などの疾患別に情報共有
14	電子お薬手帳	適切な服薬指導と服薬管理、災害時に活用
15	PHR (Personal health records)	個人が自分の健康・医療情報を管理または参照する

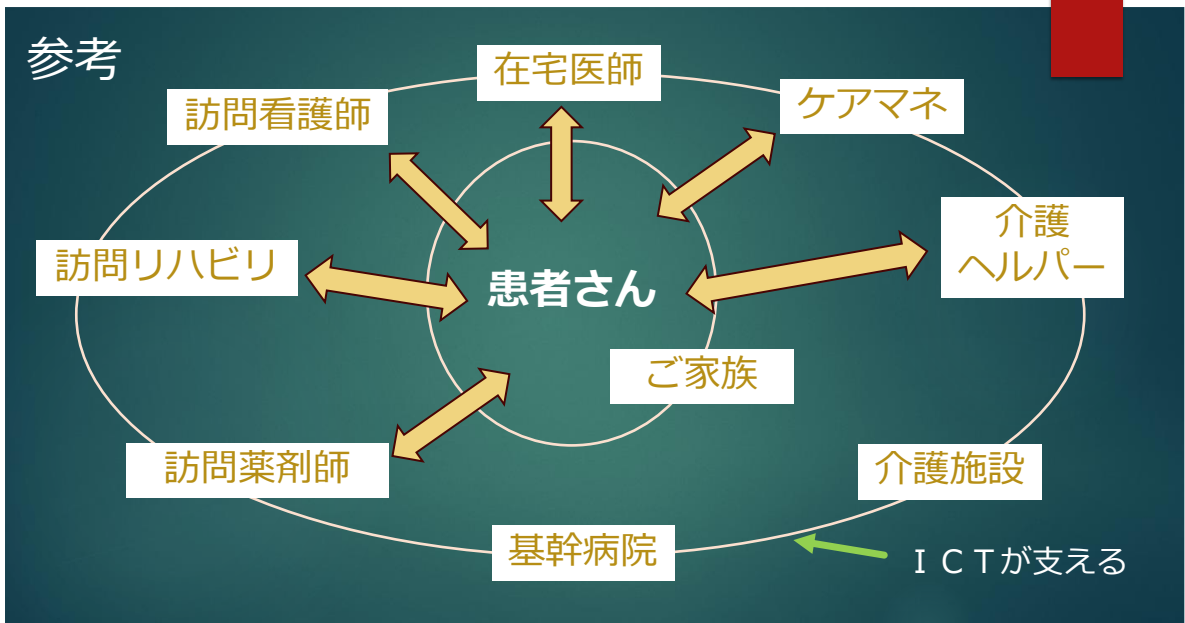
現在のコンセプト

I C Tによる在宅「医療」と在宅「介護」の橋渡し
後方支援、人員配置など業務効率化、専門知識共有、
多職種連携、経費削減（電話、ガソリン、消耗品）
・患者さんとの直接接触時はI C Tの出番は少ない
ただし医療資材は進化（コンパクト、コードレス等）

医療機器・医療資材の進化

心電図計などコンパクト化、コードレス化、使い勝手
など著しい進化、携帯装備効率が大きく向上
BluetoothなどでPCにデータを送信する機能もあるが
USBで接続することが多い（慣れている）

特に訪問歯科の口腔ケアが注目（誤嚥性肺炎予防等）
過去は軽トラックで移動（ガスボンベ等）
現在は大きめのアタッシェケース程度で十分可能



自治体レベルの現状

- ①北海道某地域 人口5万程度 医師会の主導で
バイタルリンク®帝人ファーマ提供を活用
(標準初期費用80万円、ランニング1万円/月程度)
患者さんからの要望・メッセージを即時把握
- ②秋田県某医師会 ナラティブ・ブック®を活用
患者さんの人生観を共有、高価値の在宅医療を提供
- ③東京都豊島区発祥MCS (メディカルケアセンター)
医療・介護専用 非公開型SNS 等々

現在の潮流

- ・ 患者さんの意思・要望の汲み上げにシフト
（場合によっては、より良い看取りまで）
参考 自宅で死にたい8割、現実には1割強
- ・ 効率的な訪問診療の実現

課題

患者さん家の I T 環境、ご家族の高齢化

ICT 最大の恩恵は

訪問スケジュール作成

人員シフト調整

各種書類作成

パートタイム賃金計算

介護報酬請求

これら統合型ソフトの登場！

まとめ

ICTによる多職種連携強化・業務効率化により患者さんに寄り添った訪問診療・訪問介護が実現してきている（患者さんニーズへの即応体制や人生観の尊重 等）

ITに通じた患者さん（ご家族）は、より恩恵を受けやすい（IT無縁な患家への対応が課題）

在宅医療は日進月歩、引き続き頑張ります